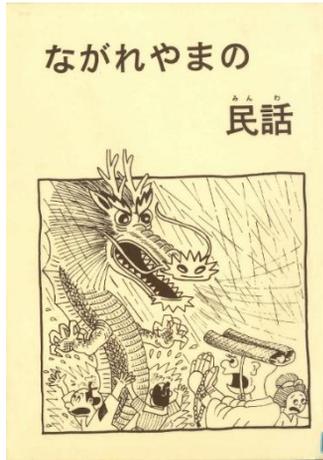


# 郷土かわらばん

## 流山の民話とゆかりのある寺社など2

今号では、郷土かわらばん第12号「流山の民話とゆかりのある寺社など1」に引き続き、『ながれやまの民話』に載っている民話の概要と、登場する寺社などについてご紹介します。



「ながれやまの民話」

構成・漫画 おのつよし

### ⑤ 「ばちあたりの仙蔵」

加村のお志乃さんは、野々下の日朝さま（浄蓮寺）に、よくお参りに行っていました。お志乃さんには働き者の仙蔵という孝行息子がいましたが、いつのころからか博打を覚え一文無しに。志乃さんが何日も帰ってこないため、浄蓮寺の日朝上人さまに尋ねると、祈願の旅に出かけたことを聞かされます。仙蔵は、志乃さんの無事を祈り、「博打封じ」の絵馬を描いてもらいお寺に奉納しました。その後志乃さんは無事に帰り、仙蔵は心を入れかえて働きました。

### 浄蓮寺（じょうれんじ） 野々下

浄蓮寺は山号を「理性山」といい、「釈迦

牟尼仏」を本尊とする日蓮宗の寺院で、人々

には「日朝さま」として親しまれており、そのいわれは、身延山久遠寺を中興した日朝上人をお祀りしたことにあります。昔から「眼病平癒」の寺として関東一円の信者から帰依を受け、境内には奉納されたたくさんの絵馬があります。仙蔵の奉納した絵馬は、流山市立博物館に展示されています。

### ⑥ 「ビン小僧の金市」

流山の造り酒屋「金子屋」に市之丞という一人息子がおりました。子供の頃家業が傾き、父親が亡くなると、遊び人の仲間に入り博打に手を出しました。その後、盗賊となりましたが、盗みに入るのは金持ちの屋敷で、また盗んだお金は貧しい家にはらまいて歩いたといいます。いつの頃からか「ビン小僧の金市」と呼ばれ、

森の図書館  
X  
@N\_morino  
oto



発行  
流山市立  
森の図書館

指定管理者  
株式会社  
すばる

天明の大飢饉のときにも飢えた人々に金を与えて、義賊といわれるようになりました。ついには捕らえられて処刑されましたが、地元の人々は生まれ故郷の流山の閻魔堂の墓地に葬りました。

金市の話は、江戸時代のおわりから明治時代のはじめの講釈師二代目松林伯円が「天保六花撰」を創作し、また明治になって河竹黙阿弥が「天衣紛上野初花（くもにまごううえのはつはな）」の歌舞伎に仕立て、大ヒットしました。

### 閻魔堂（えんまどう） 流山2丁目

閻魔堂はその名のとおり、閻魔大王を祀り、安永五年（一七七六）銘の座像が安置されています。境内には、如意輪観音などの石造物や義賊金子市之丞と遊女三千歳の墓地があります。昔からこのお墓にお参りすると「頭の病が治る」「子どもの夜泣きが治る」「勝負ごとには負けない」などと言われています。



金子市之丞の墓  
「東葛流山研究 第29号」  
19ページより引用

## ⑦ 「流れてきた山」

あるとき、大雨が降り続き、大洪水がおきました。洪水は川上から石や土や木を押し流してきました。低いところの家は流れたものもあり、田んぼも泥水の底に隠れてしまいました。すると、お椀を伏せたような山ができていました。なんと、上州（群馬県）赤城山の一角が崩れ、流れ着いてきたものでした。村人は、上州赤城神社からお札をいただき鎮守様としてお祀りしました。いつからか、流れてきた山があることから、「流山」とよばれ、村の名前となりました。

## 赤城神社（あかぎじんじや） 流山6丁目

流山6丁目の赤城神社は、上州赤城山の二ノ宮赤城神の分神を奉安したもので、お祀りしている神様は大己貴命（おこなむちのみこと）と豊受姫命（とようけひめのみこと）です。再建は元和六年（一六二〇）発願は別当信楽光明院円寛、催願は弟子昇應と棟札にあります。赤城神社の本殿、棟札・木札、橋掛りは、市指定有形文化財に指定されています。また、赤城神社大しめ縄行事は、市指定無形民俗文化財に指定されています。

## ⑧ 「目つぶしの鴨」

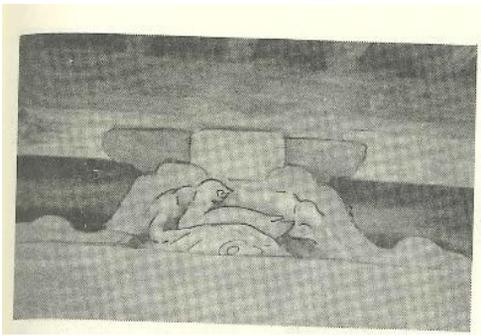
稲が豊作のころ、田んぼが何者かに荒らされました。村人たちが不思議に思い、いろいろ調べてみましたがその犯人が見つかりません。見張ってみようということになり、村人が朝から夜になるまでじっと見張っていたと

ころ、ある日鴨がやってきて盛んに荒らしていききました。後をつけてみると、東福寺の山門近くで見えなくなり、あちこち探しているうちに山門の鴨居に泥がたくさんついていました。さらに上を見ると彫刻の鴨の足にも泥がついています。そこで村人たちはすぐに五寸釘をその鴨の目に打ち込んでしまいました。すると翌日から田畑は、荒らされなくなりました。

### 東福寺(とうふくじ) 鰯ヶ崎

東福寺は山号を「守龍山」といい、弘仁五年(八一四)に弘法大師により開山された真言宗の寺院です。石段を上ると運慶作と伝えられる阿、吽の仁王様(市指定有形文化財)を安置する朱塗りの仁王門があります。その正面奥に、弘法大師一刀三礼の作といわれる本尊薬師瑠璃光如来を祀った本堂があります。また、本堂の正面天井には、

文久三年(一八六三)の「依藤太(藤原秀郷)百足退治」の大きな絵馬が掲げられており、市指定有形民俗文化財に指定されています。境内から庫裏にむかう中門は、日光東照宮造営の時の材料が一部寄贈され、建立されました。この門には、左甚五郎作と伝わる二羽の鴨がいて、境内側の鴨居の上には口を開けた鴨、庫裏側の門には口を閉じた鴨がうづくまっついていて、この鴨が目つぶしの鴨とよばれています。



目つぶしの鴨  
流山の史跡をたずねて  
56ページより引用

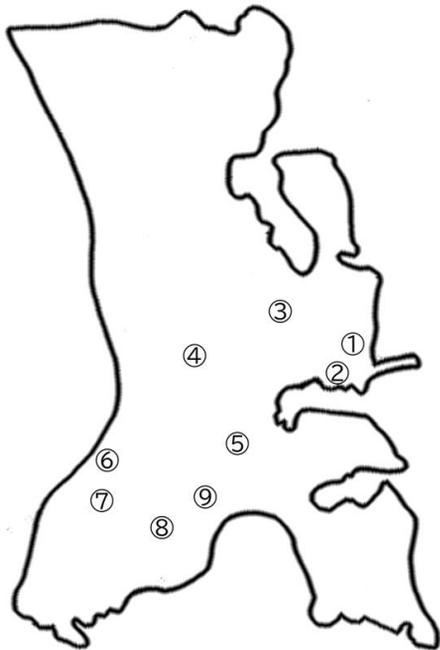
## ⑨ 「八木の椎の木」

むかし、悪い病気が流行って、村々では死ぬ人が続き、また作物の出来が悪く稲も凶作の年がありました。思井、中、芝崎、加村、古間木、前平井、後平井、西平井の八か村の名主が、寄り集まって相談し、ご利益のある紀州(和歌山県)の熊野さまをお迎えすることになりました。神様をお祀りする日、祝詞が終わり、神主が桐の箱からお札を取り上げたところ、中から椎の実が転がり落ちました。鳥居の傍らに蒔いたところ、八本の幹に分かれた椎の木はぐんぐん成長しました。御神木にちなみ八つの村は、八木村となりました。鎮守様をお祀りしてから病気も治り、稲も豊作になりました。

### 熊野神社(くまのじんじや) 思井

正面の急な石段を上ると右側に、苔の生えた伝説の椎の古木があります。鳥居をくぐる

## 「ながれやまの民話」に ゆかりのある寺社マップ



- |            |        |
|------------|--------|
| ①大龍王とお坊さま  | 成願寺    |
| ②くらかけの松    | 諏訪神社   |
| ③オランダ観音さま  | オランダ観音 |
| ④朝ねぼうの観音さま | 西栄寺    |
| ⑤ばちあたりの仙蔵  | 浄蓮寺    |
| ⑥ビン小僧の金市   | 閻魔堂    |
| ⑦流れてきた山    | 赤城神社   |
| ⑧目つぶしの鴨    | 東福寺    |
| ⑨八木の椎の木    | 熊野神社   |

※ ① ② ③ ④は、郷土かわらばん第12号で  
ご紹介しています

と社殿があり、お祀りしている神様は櫛御気野命（くしみけのみこと）です。紀州の本社から分祭のため御霊を頂いてきました。創建はわかりませんが、天和元年（一六八一）一月再建の記録があります。八木村は古くは「八木郷」または「矢木郷」といい、鎌倉時代の建久八年（一一九七）の香取神宮の遷宮式の注文状には、矢木郷の負担としてモミ十石と麻と絹を寄進しています。

## まとめ

流山の民話を紹介した本は、市内図書館で借りることができます。郷土かわらばん第12号に掲載の資料のほかにも、流山市立博物館友の会編による「楽しい東葛伝説民話事典」、市民の方から聞いた不思議な話をまとめた「不思議流山市立博物館調査研究報告書16」など、様々な本を取り揃えています。所蔵図書館などは図書館ホームページで検索していただくか、お近くの図書館までお問い合わせください。

## 参考文献

- ・『流山の史跡をたずねて』 流山市教育委員会 斎書房 1974年
- ・『広報ながれやま 縮刷版第2巻』 流山市役所市長公室秘書広報課 1981年
- ・『ながれやまの民話』 おのつよし 流山市商工課 1993年

- ・『おの・ちゅうこう昔ばなし 流山・野田の巻』 おの ちゅうこう 斎書房 1986年
- ・『楽しい東葛寺社事典 東葛流山研究 第34号』

- 流山市立博物館友の会 斎書房 2016年
- ・『楽しい東葛伝説民話事典 東葛流山研究 第29号』 流山市立博物館友の会 斎書房 2011年
- ・『こんにちは流山』 社会教育課 流山市教育委員会 1985年
- ・『チエック！ 流山のむかし』 流山市立博物館 流山市教育委員会 2016年

いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。

協力・流山市立博物館